

## 第1回「トイレ設置数の基準と適用のあり方に関する協議会」

### 議事概要

日時：令和7年11月6日（木） 10：00～12：00

場所：中央合同庁舎3号館8階特別会議室（ハイブリッド開催）

議事：（1）協議会における議論の方向性について

（2）女性用トイレ行列解消の取組に関する事例集について

（3）空気調和・衛生工学会における規準について

（4）各施設管理者におけるトイレ設置数の考え方について

・ 東日本旅客鉄道株式会社

・ 中日本高速道路株式会社

・ 三井不動産株式会社

・ 佐賀県

### 【議事概要】

（総合政策局長、座長より挨拶）

### 議事（1）協議会における議論の方向性について

（事務局より資料説明）

#### 【委員・関係者からの意見等】

- 行列が問題なのか、待ち時間が問題なのかについては、分けて考えた方がよい。

### 議事（2）女性用トイレ行列解消の取組に関する事例集について

（内閣官房より資料説明）

#### 【委員・関係者からの意見等】

- 音楽などにより、待ち時間を長く感じさせない工夫があればよい。
- 便房内に知らせる情報は、「待っている人が何人います」といった内容の方が、トイレの利用者に対して退室を促す効果があるのではないか。
- 群衆制御の有識者によれば、行列が進んでいること、待つ場の環境が良いこと、どのくらい待てばいいのかわかることが大事とのことである。そうした事例があってもよいのではないか。
- 文化施設の多くは、高度経済成長期に建設されている。改修には資金の問題があり、国の耐震化等の支援にトイレも含めてもらえれば、より一層進むのではないか。
- 男性・女性・バリアフリーなど、トイレのスペースは取り合いの状況である。便器数の少ないトイレでは、なるべくシェアする方向性で考えないと解決しにくいのではないか。
- 便器数の多いトイレと便器数の少ないトイレの対策はそれぞれ分けて考えた方がよいのではないか。

### 議事（３）空気調和・衛生工学会における規準について

（小瀬委員より資料説明）

【委員・関係者からの意見等】

- 女性の待ち時間の許容時間が男性より長いことについて、女性が長い間の習慣で許容してしまい、待つことが当たり前だと理解しているのではないか。それは不均衡であるため、改善していただきたい。
- 待ち行列が発生する大きな理由として、スペースの制約がある。多くの改修の現場では、増床することはできない。今あるスペースの中で検討し、諦めることが多かった。
- 基本設計で男女のトイレの面積を同じにすることが多くあると思うが、男女のトイレの面積を同じにすると問題が生じてしまうことを周知していく必要があると考える。

### 議事（４）各施設管理者におけるトイレ設置数の考え方について

（各施設管理者より資料説明）

【委員・関係者からの意見等】

- 特になし

### 各委員より議事（１）～（４）を踏まえた意見等

- 実際のトイレ環境へ反映させるためには、事業者のアクションに繋げる必要がある。取組を行うことによるメリットなどを示せるとよいのではないか。
- 日本のトイレは安心・安全であり、清潔さや快適さも誇ることができる。足元のニーズやトレンドも押さえ、付加価値をつけてガイドライン・事例集を作成いただきたい。
- 女性は、待つことが当たり前と考えた上でアンケート調査に回答していることも考えられる。あるべき姿を踏まえて、基準などをつくっていただきたい。
- 待ち時間を平等化させる場合、理論上は全て男女共用トイレにすると可能であるが、心理的な抵抗感がある人や犯罪などの不安がある人もいる。慎重に検討する必要がある。
- バリアフリートイレや男女共用トイレを切り離して考えることはできないのではないか。
- 国民の行動変容も必要であり、ソフトの取組もガイドラインに示唆されるとよいのではないか。
- 学会の規準は学術的エビデンスに基づいているが、そこを踏み越える必要があると考える。一方で、規準を変更することのインパクトは大きいことに留意する必要がある。
- 男性の大便器の不足も深刻であり、女性だけでなく、男性も考慮する必要がある。
- 新設と改修で考え方が異なるため、その視点での整理が必要である。
- トイレの面積を増やしていく方向になると思うが、関係業界ともしっかり議論をする必要があるのではないか。
- 便房の面積を小さくすることも考えられるが、その辺りは許されるのか。便房の狭さにより引き起こされる問題も多くある。

- 異性のことを理解しないまま設計されていることが多いのではないか。また、子連れのファミリーによる使用など、多様な方に使用されることを想定して、便器数の算定方法の根拠を考える必要があるのではないか。
- 同じ建物のトイレでも、隣のトイレでは占有時間が20～30秒異なる場合がある。混雑状況は立地や利用のされ方などによって、占有時間は大きく変わると認識している。
- 1つのトイレでの工夫、1つの建物内のトイレでの工夫、複数の建物内のトイレでの工夫のように、混雑改善の工夫には点・線・面の視点があるのではないか。複数の建物でトイレをシェアするような事例も取り込んでいただきたい。
- トイレトペーパーの使いにくさ、ボタン配置の分かりにくさ、ドアの開き方（内開き、外開き）なども混雑につながっているのではないか。
- 衣服の嗜好の変化も、占有時間に影響しているのではないか。また、季節によっても変化するのではないか。

以上